

東京大学東洋文化研究所
班研究「イスラーム美術の諸相」
東文研セミナー

門井由佳博士（ウイーン大学） 「イスラーム美術とミュージアム — 21世紀の展望」

本講演では、2000年頃から現在までのイスラーム美術分野に関する世界各国の美術館・博物館プロジェクトの状況を紹介・概観します。「イスラーム美術」と呼ばれる展示ジャンルに関する20年にわたる議論を検討することにより、この分野に関する様々な社会学的議論を21世紀のミュージアム学の文脈に置くことを目指します。

門井由佳博士は、中世ペルシャ美術・近現代ペルシャ美術研究史を専攻にされ、立命館大学文学部東洋史学専攻にて学士号を取得された後、英国エジンバラ大学に留学、2005年に美術史の博士号を取得、カタールのイスラーム美術館、シカゴ美術館でキュレーターとして経験を積んだ後学术界に戻り、エジンバラ大学、レバノンアメリカン大学など世界各国で客員教授・研究職等を経て、2019年からウイーン大学歴史文学部美術史学科にオーストリア・サイエンスファンド（FWF）助成研究者として着任、グローバル美術史家として国際的に活躍されています。

**日時：2023年9月13日（水）
15時半～17時半**

**場所：東京大学東洋文化研究所
3階大会議室**

（対面のみ、登録は必要ありません）

お問い合わせ：柵屋（班研究「イスラーム美術の諸相」）
masuya@ioc.u-tokyo.ac.jp